



編集長より

古来より先人達は、十分な食料を供給し、安全な食品を生産し、食品に由来する疾病を防ぐことに多大な努力を払ってきました。近年では、このような食に対する努力は特に、農薬や食品添加物、食品の製造加工技術、食品流通の仕組み等の創出と発展に向けられるようになってきました。このような食品供給に関する科学技術の発展とともに、食品の安全性を確保するための仕組みや方法にも、この数十年間に著しい進歩が見られました。

しかし一方では、食品供給を取り巻く環境が目まぐるしく変化し、この変化が食品の安全性への懸念を生じることとなっています。例えば、地球温暖化による環境変化は、病原微生物や毒素産生微生物の分布の変化を招くとともに、穀物や畜水産物の生産を損なうことが懸念されています。その結果として、海洋性自然毒やかび毒に加え、食品由来の病原体やその他の危害因子を摂取する機会が増えることによって、人々の健康リスクが高まる可能性が考えられています。また、工業的に製造加工された食品を含め、食品の流通と貿易の拡大は、大規模な食中毒や食品媒介感染症の集団発生を生じさせることが懸念されるどころです。これまでに食経験のなかった新しい食品や既存の食品であっても新しい技術により生産された食品が登場し、それらの食品の安全性を心配する向きもあります。このような中で、食品安全に焦点を当てた科学技術を発展させることは、これまで以上に重要なことといえます。

食品の安全性に関する科学技術は多岐にわたる研究領域を含んでいるため、その成果は、微生物学、生化学、毒性学、疫学、農学、環境科学、公衆衛生学等の各専門学術雑誌に広く分散して発表されています。しかし、食品安全に関する科学技術のさらなる発展を成し遂げるためには、食品安全に関する研究成果が集約され、必要に応じて誰でも引き出すことができるような科学的知見を含むデータバンクを用意する必要があります。このようなデータバンクの必要性を重視し、私たちは、“*Food Safety - The Official Journal of Food Safety Commission of Japan*” という査読付のオープンアクセス電子ジャーナルを刊行することにしました。

このジャーナルには、食品安全委員会が実施した食品に関するリスク評価の結果のみならず、関連する食品安全の広範な分野をカバーする原著論文、短報、総説を掲載することとしています。特に、(1) 食品の安全性に関する生物学的、物理的及び化学的因子の病原性及び毒性、(2) 食品の安全性に着目した食物連鎖における生物学的、物理的及び化学的危険因子の発生、(3) 食品媒介疾病の制御及び疫学、(4) ナノ物質や遺伝子組換え体を含む新規食品の安全性評価、に関する研究成果の投稿を歓迎します。この新しいジャーナルの刊行により、食品安全に関するレギュラトリーサイエンスを組み込んだ科学技術のレベルの向上を図ることができ、また、食品安全に特化して統合した研究分野の発展に少しでも貢献することができることを切に願う次第です。

熊谷 進